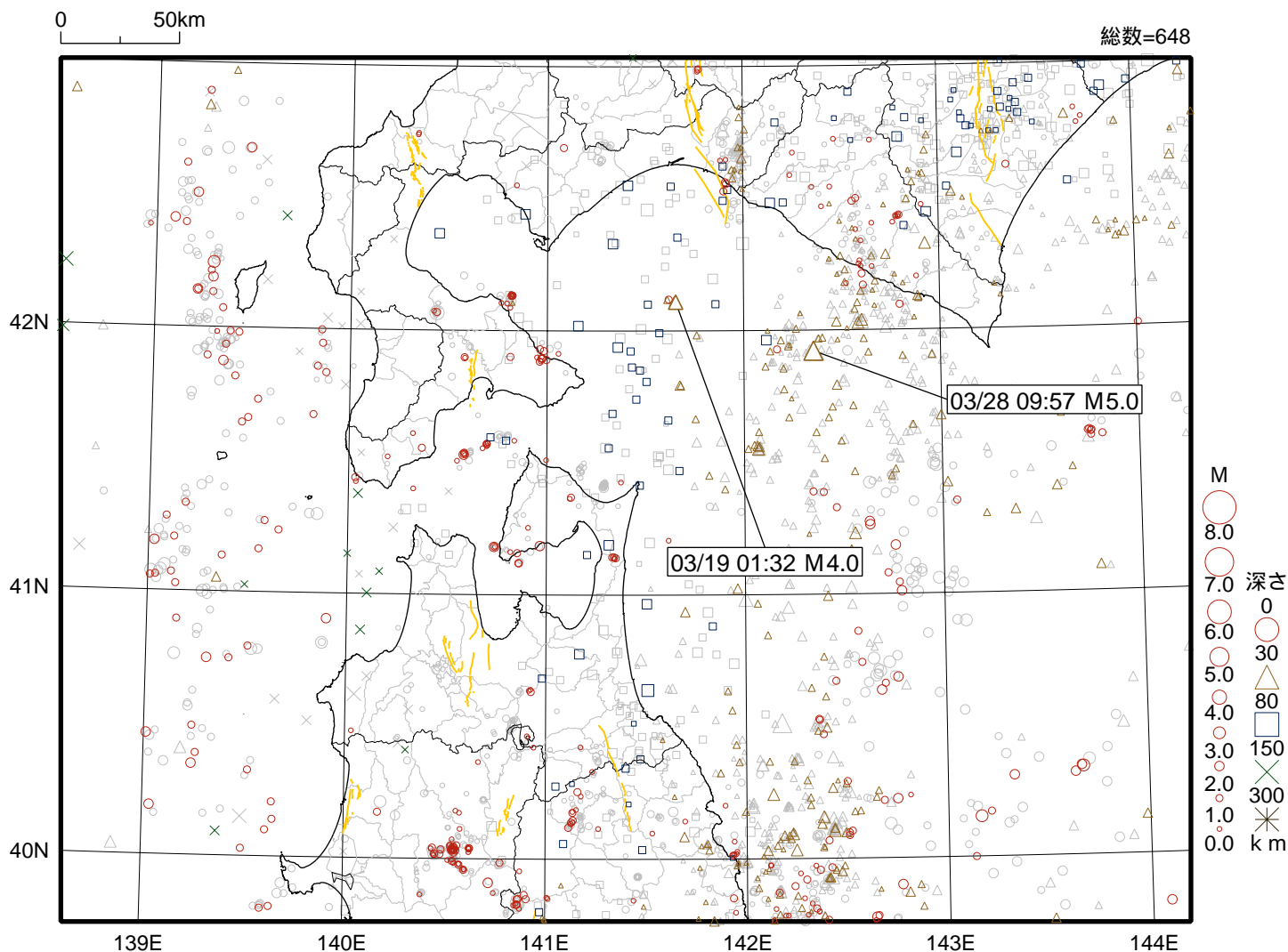


渡島・檜山地方の地震活動図

2020年3月1日～2020年3月31日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

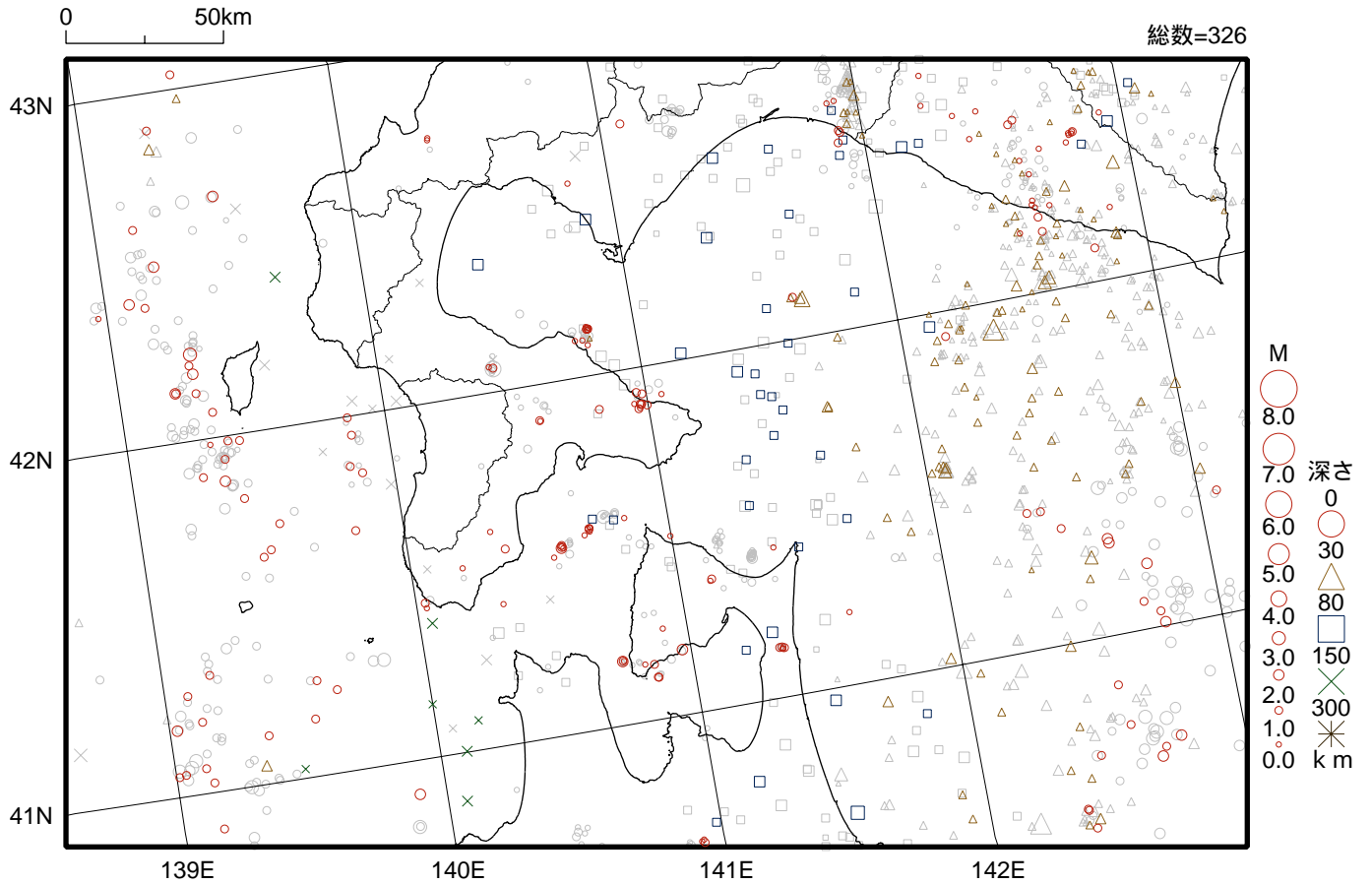
地震概況（2020年3月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は2回（2月は5回）でした（詳細は「震度1以上を観測した地震の表」参照）。

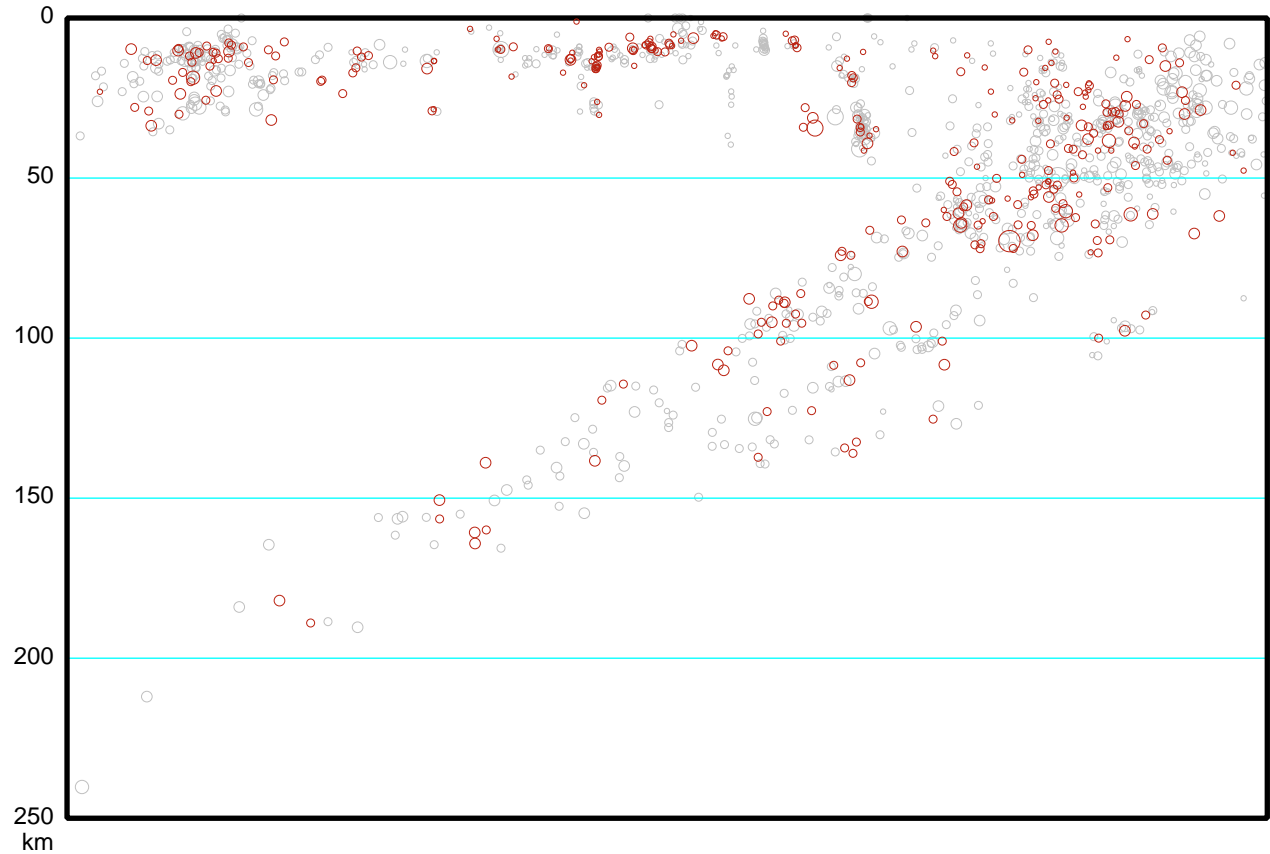
28日09時57分、浦河沖の地震（M5.0、深さ70km）により、函館市泊町、函館市新浜町で震度3を観測したほか、渡島地方・檜山地方で震度2～1を観測しました。

2020年3月1日 ~ 2020年3月31日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

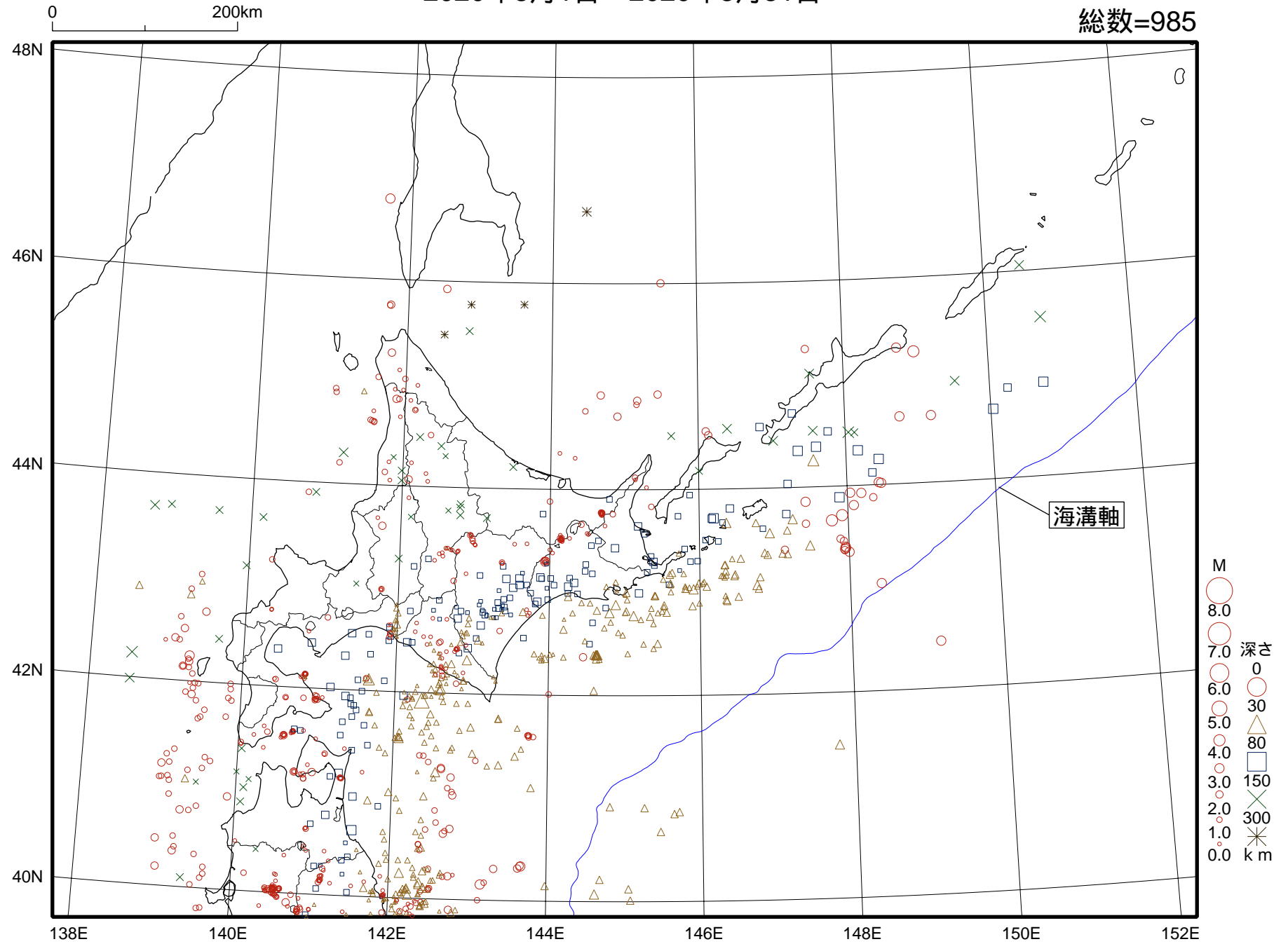
北海道の地震活動図

2020年3月1日 ~ 2020年3月31日

札幌管区気象台

震央分布図

総数=985



震度 1 以上を観測した地震の表 (2020年3月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
2020年 3月19日 渡島地方	01時32分 震度 1	苫小牧沖 函館市尾札部町 (06) 函館市泊町 * (11) 七飯町本町 * (06) 鹿部町宮浜 * (12)	42 ° 06.5 N	141 ° 39.2 E	34 k m	M4.0
2020年 3月28日 渡島地方	09時57分 震度 3 震度 2 震度 1	浦河沖 函館市泊町 * (25) 函館市新浜町 * (25) 函館市尾札部町 (17) 函館市川汲町 * (24) 鹿部町宮浜 * (15) 長万部町平里 * (08) 函館市美原 (08) 函館市大森町 * (10) 函館市日ノ浜町 * (13) 七飯町桜町 (08) 七飯町本町 * (11) 渡島森町御幸町 (08) 渡島森町上台町 * (09) 渡島森町砂原 * (12) 渡島北斗市本町 * (06) 福島町福島 * (07)	41 ° 55.3 N	142 ° 21.2 E	70 k m	M5.0
檜山地方	震度 1	厚沢部町木間内 * (06)				

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震概況ではセントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

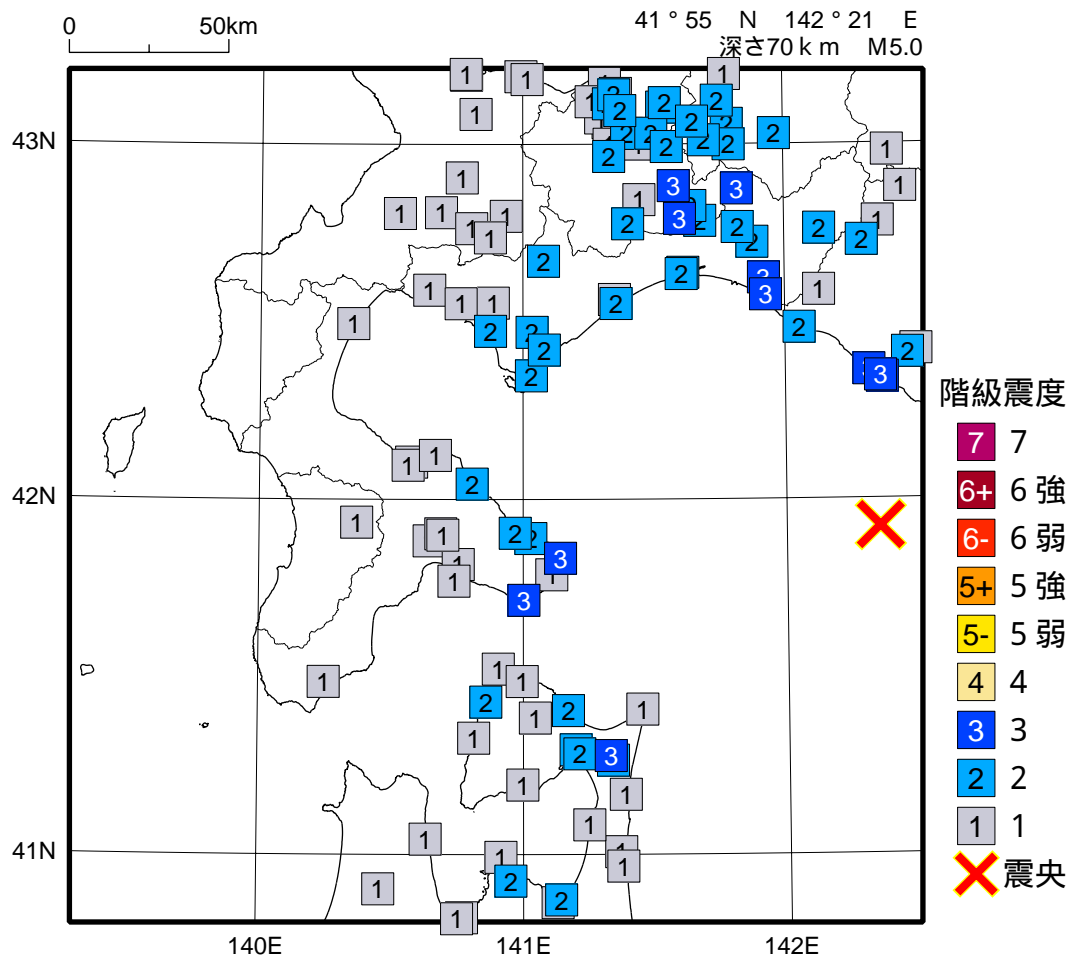
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	~ 0.4	0.5 ~ 1.4	1.5 ~ 2.4	2.5 ~ 3.4	3.5 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 ~ 5.4	5.5 ~ 5.9	6.0 ~ 6.4	6.5 ~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

2020年 3月28日09時57分 浦河沖の地震の震度分布図



【防災メモ】

～異常震域について～

一般的に、地震の揺れは震源に近い場所ほど強く、震源から遠い場所ほど弱くなります。しかし、深い場所で発生する地震（深発地震）では、震源に近い場所より遠く離れた太平洋側の場所の方が強く揺れる場合があります。

深発地震が発生すると、震源に近い真上には、地震波が減衰しやすい領域を通るために揺れが弱まって伝わる一方で、太平洋側には、地震波が減衰しにくい海洋プレートを通るために揺れがあまり弱まらずに伝わります。その結果、震源に近い場所よりも遠く離れた太平洋側で震度が大きくなり、このことを「異常震域」と呼びます（図1）。

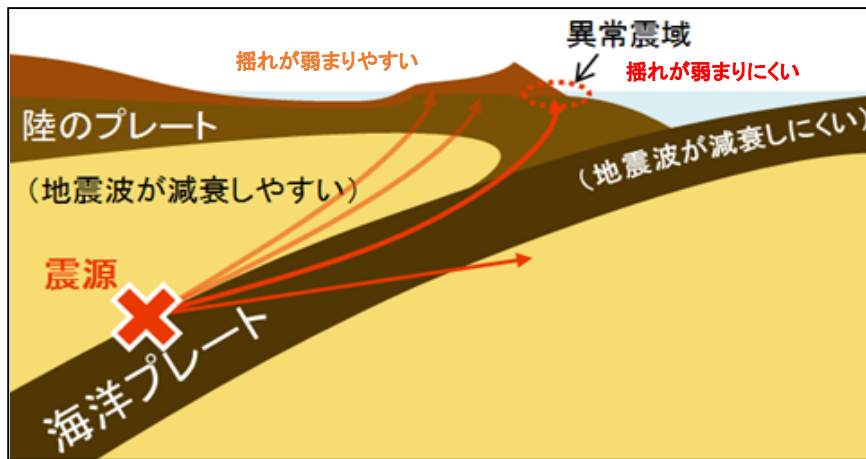
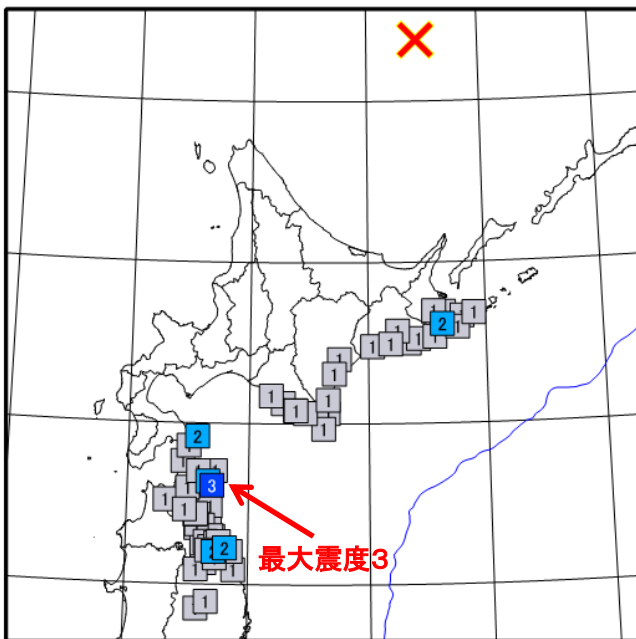
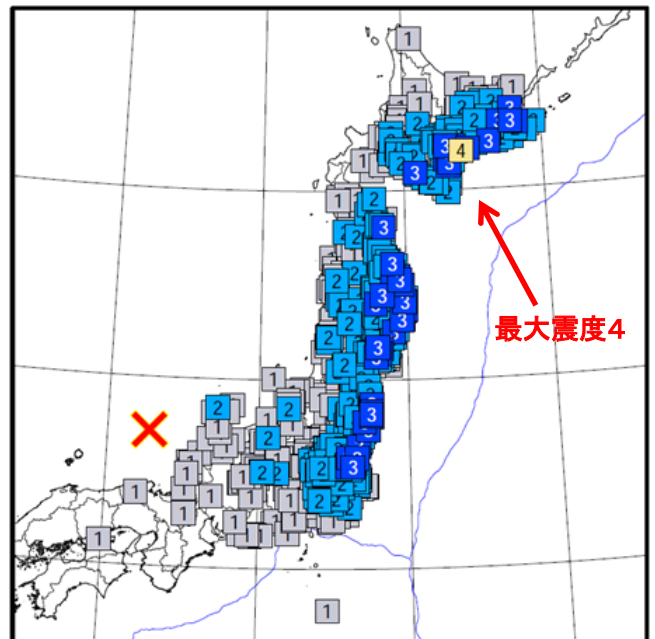


図1 異常震域模式図

例えば、オホーツク海南部の地震（深さ 431km）により北海道と東北地方の太平洋側のみで震度 1 以上を観測した事例や、京都府沖の地震（深さ 374km）により北海道の浦幌町で最大震度 4 を観測したほか、北海道から関東地方にかけての太平洋側で震度 3 以上の揺れを観測した事例があります（図2）。



オホーツク海南部の地震の震度分布図
(2011年12月10日 M5.7 深さ431km)



京都府沖の地震の震度分布図
(2007年7月16日 M6.7 深さ374km)

図2 異常震域の例（×印は震央、数字は震度を示す）